



進展する中国のデジタル化

上海での駐在員生活が1年半を経過した今でも、中国のデジタル化の進展による高い利便性については驚かされます。中でもキャッシュレス決済とシェアサイクルは日常生活との密着度が高いため、より身近にその利便性を感じています。今回はキャッシュレス決済とシェアサイクルサービスの現状を通し、中国のデジタル化の進展についてお伝えします。

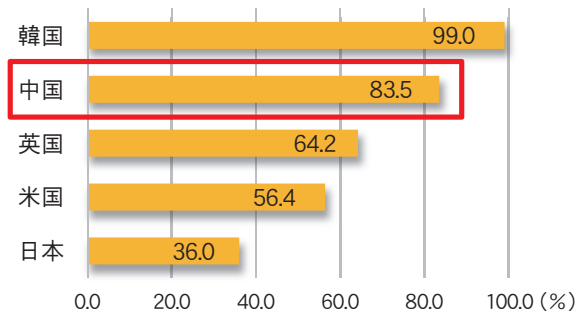


肥後銀行
上海駐在員事務所 所長
坂西 倫明

■キャッシュレス決済

一般社団法人キャッシュレス推進協議会のレポートによると、中国は約83.5%で主要国の中でも上位の普及率となっています。これはスマートフォンの急速な普及と、政府の強力な後押しによるところが大きいと考えられています。ちなみに、日本のキャッシュレス決済普及率は約36.0%（2024年総務省公表：42.8%）とまだ十分伸びしろがある状況です。

主要国のキャッシュレス決済比率（2022年）



出所：一般社団法人キャッシュレス推進協議会
「キャッシュレス・ロードマップ2022」

(1) 主要な決済手段

主なキャッシュレス決済手段は大きく二つに分かれており、一つは支付宝 (Alipay)、もう一つは微信支付 (WeChat Pay) のアプリ

	運営	ユーザー数	決済方法
 支付宝 ALIPAY	アリババグループ (中国版Amazon)	10億人超	・いずれも二次元コード読取り ・チャージは不要。銀行口座、 クレジットカードと連携し利用。
 微信支付 WeChat Pay	テンセント (中国版LINE)	8億人超	

以降は会員専用ページにて公開しております。

(2) キャッシュレス決済の特徴

日常生活には、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)